



～ 夢ひとすじに ～  
**宮原中だより**  
学び 磨き 鍛え 羽ばたけ

令和 6 年度 第 3 号  
令和 6 年 5 月 3 1 日 (金) 発行  
さいたま市立宮原中学校  
ホームページアドレス  
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp>  
メールアドレス  
miyahara-j@saitama-city.ed.jp

『至誠にして動かざるものは、未だこれあらざるなり』

校長 田中 和 浩



『至誠（しせい）にして動かざるものは、未（いま）だこれあらざるなり』とは、もともとは中国の孟子の言葉で、「精いっぱい誠意で相手に接すれば、心を動かされない人はいない。人の心を動かそうと思ったら、真心をもって精いっぱいの心で接することだ。」という意味になります。

これは、幕末の志士、吉田松陰（よしだ しょういん）先生の名言としても有名な言葉です。吉田松陰は、江戸時代末期（幕末）に活躍した思想家、教育者です。長州藩（現在の山口県）に生まれ、私塾「松下村塾」を設立しました。「松下村塾」からは、のちの明治維新を支える高杉晋作、伊藤博文、久坂玄随といった要人を育てたことで知られています。その吉田松陰が好んで用いた言葉としても伝えられています。

国の大事を成そうと奔走した、吉田松陰ですが、そのように大きな目標ではなくとも、この言葉は、当てはまると思い、私も好きな言葉のひとつとして挙げさせていただいています。

人との関係の中では、同じ言葉や行動を行っても、人によってとらえ方が異なる場合があります。そのような言葉や行動に誤解が生じて、自分自身に精いっぱいの誠意があれば、気持ちは必ず伝わるものだと思います。

しかし、どんなに誠意をもって頑張っても、成し遂げられないこともあります。また、無理を押し通そうとしても、思わぬ損失につながることもあります。だから何事も、人の意見に耳を傾け、慎重な行動をとることが大切です。自分の力で無理に成し遂げようという「至誠」ではなく、自然のはたらきそのもの任せて無理をせず続ける力が大切であると思います。そうして続けていくことこそが、自分の真心が伝わることに繋がると信じます。

『継続は力なり』

6月1日（土）より1週間、運動部活動の学校総合体育大会が中心日を迎えます。3年生にとっては、これまでの成果を試す最後の大会となります。また、6月24日（月）、25日（火）は、期末テストを実施します。1学期間で学んだことがどれだけ身についているかを知る機会となります。

部活動の技術を身に着けることと、学んだことを身に着けることには、いくつか共通点があります。その一つが「理解できたことを繰り返し練習すること」ではないでしょうか。しかし、技術や学問を身に着けるためにかかる時間には個人差があり、すぐにできてしまう人もいれば、時間にかかる人もいます。他の人との比較ではなく、まずは目の前の達成可能な目標を定めて、継続する工夫をすることが大切です。一つ一つの小さな成功を積み重ねることが長く続けていくコツであり、目標を達成することにつながると思います。『継続は力なり』。続けることで、必ず大きな成功を手にするができると思います。

今回、学校総合体育大会では、私もできるだけ多くの試合に応援に行かせていただきます。保護者の皆様にもご協力をお願いすることとなりますがよろしくお願いいたします。